

ICCPO (国際キャンプカウンセラープログラム IN 大阪)

7月16日～8月21日、アジアの各YMCAで活動を行っているコースが大阪YMCAコースリーダーと共にサマーキャンプのカウンセラーとして活動を行い、出会いを通して共に平和を築く青少年を育むことを目的とする、ICCPOが行われました。

今回は香港・台北・ソウルYMCAのキャンプリーター12名が参加。大阪YMCAキャンプ場(六甲・阿南・紀泉)で約1ヵ月間、キャンプリーターや様々なキャンパーと交流を深めました。



阿南国際海洋センターには香港・台北から各2名、合計4名のコースリーダーがやってきました。初日から疲れも見せず、早速カヤック(一人乗りカヌー)に乗って海のプログラムを体験し、阿南リーダーの日本大学生とコミュニケーションの方法を探りながらの共同生活が始まりました。翌朝にはラジオ体操も初体験し、ロープの結び方の講習を受けて早速キャンパーと共にプログラムに参加しました。日増しに日本語もプログラム指導も上手くなり、1ヵ月のキャンプリーター活動では多くの日本のキャンパーとの出会いがありました。また、入れ替わりやってくる阿南リーダーとは言葉は違えどすぐに仲良くなり、多くの仲間との出会いを楽しんでいました。そして彼らの存在が阿南リーダーたちに何とかコミュニケーションを取ろう、友達になろうという働きを生み出し、それがきっかけとなり日本人リーダー間のコミュニケーションの機会も増すなど様々な良い影響を与えていました。

キャンプ最終日、多くの阿南リーダーと抱き合って涙するICCPO参加メンバーの姿は「キャンプは平和を作り出す」という先達の言葉を改めて心に刻む時となりました。

(橋本 啓・阿南国際海洋センター所長)

第13回日米親善中学生バスケットボール交流

1995年の阪神淡路大震災でのアメリカのNPO「JCCCNC」(北カリフォルニア日本文化コミュニティーセンター)からの援助をきっかけに、毎年日本とアメリカの青少年がバスケットボールなどを通して互いの文化を理解し、友好関係を築く交流が続いています。今年は8月29日から約1週間にわたり、サンフランシスコの親善メンバーが大阪を訪れました。

「親善バスケの思い出」

大阪市立東住吉中学校2年 野上 文
私は今夏4度目の親善バスケを体験し、この親善プログラムを通じて、たくさんの宝物をつかみました。

3年前に男子コーチの家族として渡米、2年前は初ホストファミリー、昨年初めてたった1名の子供選手として再渡米し、今年は選手&ホストファミリーとして参加することにわくわくしていました。最初はおそろおそろの片言の英語でしか話しかけられませんでした。1年経つごとに選手の方々と何とかわかり合いたいと積極的に関わり、交流を深めることができました。

そして今夏、私は驚くほどアメリカの皆さんと打ちとけることができ、ホームステイの彼女とも親友のように意気投合し、すばらしい思い出をたくさん残すことができ本当にうれしいです。

最終日フェアウエルパーティーでアメリカチームの方々が泣かれているのを見て、ほんとうにお別れなんだなあと思感がわきました。そのあと全員で「YOUNG MAN」を踊ったことが心に強く残っています。

私はまだこの親善が終わった気がしません。日米の私たちの強いきずなは、かけがえのない思い出とともに、永遠に心の中で繋がっていくと信じています。



多彩な国際交流

大阪YMCAで実施している様々な国際交流をご紹介します。

アジア学院

過去30年に亘って南YMCAでは、栃木県西那須野にあるアジア・アフリカ諸国の農村指導者養成機関であるアジア学院研修生の関西方面研修旅行の受入れを行っています。



今年も南YMCAのアジア学院実行委員会と国際リーダー会が主になって、ウエルカムパーティーや、人権やコミュニティービルディングをテーマにした研修、またホームステイなどのプログラムを企画・運営します。

研修生を受け入れてくださるホストファミリーの温かいサポートや、通訳ボランティアの方々熱心なサポートのおかげで、研修生にとってこの研修がかけがえのない体験となります。

アジア・アフリカの貧しい農村地域の中で活躍する「人に仕える指導者」となるべく、トレーニングを受けているアジア学院研修生および教職員の方々との2泊3日は、大変短い間ですが、共通する未来への願いを持つ私たちが共に交わりあうことによって、自分たちの住む地域にある課題に目を向けたり、アジアやアフリカ諸国との接点を再発見したり、貴重な学びを深めることができます。

そしてこうした経験の積み重ねこそが、私たちの『共に生きる社会の実現』へと繋がっていることを信じてやみません。(片山聡子・日本語学校スタッフ)

※ 通訳ボランティア(11月14日)、ホストファミリー(11月13日～15日)を募集しています。是非、ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。
問合せ 大阪YMCA学院(上町校)
☎ 06-6779-8364

海外リーダー派遣(台湾・シンガポール)

7月26日から8月29日にわたり、国際交流・ボランティア養成を目的として、大阪YMCAコースボランティアリーダー男女6名が、台北YMCA・メトロポリタンYMCAシンガポール(各3名)に派遣されました。現地では、言葉や文化の違いに戸惑いながらもキャンプや水泳などのプログラム指導・ホームステイを通じて、人の優しさや多文化に触れ、理解しあう喜びと感動、そして感謝という貴重な学びを得て、帰国しました。

「海外リーダー派遣に参加して」

土佐堀YMCAコースボランティアリーダー 三條知奈美
23日間の台北YMCAでのリーダー活動を通して、たくさんの経験をし、かけがえのない仲間と出会うことができました。現地の日本人学校に通う子どもたちとの海洋キャンプや台湾の子どもたちへの水泳指導など、様々なプログラムに台北Yのリーダーと共に取り組みました。

デイキャンプでは台湾の子どもたち、リーダーと朝から夕方まで様々なプログラムに取り組みました。最初は新しいリーダーだと思ってたくさん話しかけてくれた子どもたちでしたが、私に言葉が通じないとわかると思ってしまうようになります。そんな中、プログラムの間の空いた時間に、近くにいた女の子と「アルプスいちまんじゃく」をしました。するとそこから台湾の手遊びに発展し、気付けば部屋にいたたくさんの子どもたちがベアになって手遊びをしていました。活動の中で、作ったクラフトをうれしそうに見せながらゆっくり中国語を話してくれる子、近くにあるものの名前を覚えてくれる子、私の言いたいことを中国語にして子どもたちに伝えてくれるリーダーなど、言葉の枠を越えてみんなのやさしさを感じました。

新しいことだらけの毎日に戸惑いや不安もありましたが、たくさんの人の支えのおかげで、いろいろな学びや喜びを得ることができました。感謝の気持ちを忘れず、またこの経験を生かして、これからもリーダー活動をしていきたいと思っています。



Love & Affection Camp for Hope (スリランカ)

「平和を実現する人々は幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイによる福音書5:9)

大阪YMCAは、1995年にスリランカYMCA同盟との協働により、世界で最も過酷と言われる内戦状況にあるスリランカで、クリスマス献金等の寄付によってLove & Affection Camp(以下L&A)を実施しました。



過去10数回の実施の中で、現地の諸状況に応じてL&Aへの期待が変化してきました。開始当初は、内戦の激しい地域から子どもたちを集め、生命の危険を恐れず一時でも平安な生活を営めることが期待され、次に平和協定によって平和への機運が高まった時には、参加者が将来、各地域で希望をもってピースメーカーとしての役割を發揮するためのリーダーシップ養成が期待されました。2004年12月の津波でさらに苦痛や苦難を受けた子どもたちを対象に希望を持ち続けて欲しい願いからNational Camp for Hopeを実施してきました。

今回は内戦が終結し、2005年の1.7倍の約170人(うち、内戦や津波で家族を亡くした子どもは約半数)が参加しました。とりわけ、今までL&Aに参加が困難であった地域のタミル人が内戦終結によって多数参加でき、癒しと融和の機会となりました。250kmの距離を列車で10時間を費やして参加した子どもの元気さ、戦禍の激しかった北部地域からの子どもたちの開放感溢れる笑顔を目のあたりにしました。

今後のL&Aのあり方について現地スタッフと今までの評価や今後の進め方を協議する中で、新しく「和解」というキーワードを共有しました。参加者とL&Aに関わる多数のスタッフとボランティアの「希望に満ちた瞳」から、希望に満ちたスリランカを確信いたしました。(松野時彦・統括本部スタッフ)

*注
L&Aは、大阪・スリランカ同盟の両YMCAのボランティアとスタッフ、そして参加する現地の子どもの三者が、様々なプログラム体験を通して、共に学び合い・生かしあえる「GIVE & GIVEN」の関係性を創り出しています。

前回、東ティモールという新生国家を簡単に紹介しました。今回はその続きです。YMCAづくりには何が必要なのか。最初の一年は、ただただこの国と人々を観察しました。さあこれから、という2年目の混乱に襲われました。政権転覆を狙う勢力が武装蜂起し政府と対立したのです。反乱軍の武力衝突に加え、青年ギャング団同士の抗争など暴力事件が多発し、多くの家が焼かれ数万人が避難所生活を強いられる中、国連やNGOが次々と国外退避し、外国人はほとんど姿を消しました。幸いにも私はデイリ市内の修道院に避難し、現地で生活を続けることができました。その経験を通して私の中で何か大きく変わりました。平和だった社会があつたという間に崩れ落ちるのを目の当たりにし、平和が真に脆いものであるのかを実感しながら、YMCAづくりの方向性が大きく開けたのです。平和が失われた状況で互いを励ましあつた東ティモールの青年たちと共に、自分、家族や地域、国や世界の平和を祈りながら、プロテスタントとカトリックの青年たちによる合同礼拝や地域住民の絆を深めるためのスポーツ大会などをYMCAの主要プログラムとして運営する

国際リレーエッセイ ①



～東ティモールより～

後編
石橋 英樹さん



東ティモールYMCAの子ども図書館

2008年末に私は4年の任期を終え、YMCA設立のための取り組みを現地スタッフに託して帰国しました。東ティモールに芽吹いたYMCAの原型が、このまま順調に育っていくかどうかはわかりませんが、前途は多難でしょう。ただ、若い国だからこそ若者への期待も大きいのです。今も、より平和な暮らしを目標に活動を続ける現地の青年たちを、これからは応援していきたいと思っています。もともと強力な支援は、お金や人を送るのではなく、私たちがYMCAを通してつながっていること、それを実感できるように関心と関わりを持ち続けていくことです。

◆筆者紹介◆
石橋英樹さん
広島YMCA、韓国YMCAでの勤務を経て、東ティモールYMCA創立のため2005年から協力スタッフとして同国に駐在。昨年帰国し、3月から大阪YMCAに入職。

第15回チャリティーラン2009

日時 11月23日(月・祝) 9:00~14:00 雨天決行
会場 大阪城公園

チャリティーランは障がいのある子どもたちが様々なプログラム(キャンプ・水泳・アート等)に参加することを支援しようと、東京の在日大使館や外資系企業で構成するボランティア委員会とYMCA国際賛助会がタレントのチャック・ウィルソン氏の提唱を受けて始まり、全国各地のYMCAで行われています。今年で15回目を迎える大阪YMCAチャリティーラン。大会はボランティアによって運営されています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



●ランナーとしてのエントリーによる支援
参加協力費 1チーム5万円
コース 全走行距離 計約10km(駅伝式)
ルール 1チーム6人(そのうち1人以上を女性とする)
※競技方法には3種類(順位制・宣言タイム制・オープン制)があります。
順位制:タイムの速い順番を競うレース
宣言タイム制:ゴール予測時間との誤差で順位を争うレース
オープン制:順位、タイムにかかわらず、チームで走ることを楽しむレース
注:宣言制・オープン制は原則として実走は90分以内とし、競技を終了します。

※お申し込みの際にコースをお選びください。なお順位制はコスチューム賞対象外となりますのでご了承ください。
●寄付(寄付金・備品類など)による支援
寄付金、抽選券購入(前売り/当日)、賞品、景品、飲み物、Tシャツ、タオル、試供品、その他
●運営ボランティアによる支援
会場設営、誘導、備品準備など
*事前説明会に参加していただきます。
問合せ・申込み
チャリティーラン事務局
☎ 06-6441-0894
✉ chari-run@osakaymca.or.jp

7月26日、土佐堀YMCA会館で「ときほりサマーセミナー2009」が開校されました。今年で3回目を迎える「サマーセミナー」は一般の市民やグループが「先生」になって講師を務め、学びのプログラムを提供する参加型の交流イベントです。今回は昨年より4つ多い21の講座が開かれ、子どもから大人まで延べ400名以上が参加し賑わいました。
講座のラインアップは「ぼんぼん蒸気船作り」などの工作教室以外にも機織り、マジック、パン作り、やさしい英語など体験型講座、オオクワガタの育て方や食育講座など幅広く準備できました。
今年には保護者の方も見学だけでなく、同伴での参加申込み方式を採用したので、サマーセミナーの参加の子どもの笑顔はもうもちろん、一緒に講座を楽しむ保護者の皆さんの表情も印象的でした。

◆◆プログラム報告◆◆
ときほりサマーセミナー2009開校